

水内郡

長野市高田川端

高山家文書

高山家文書解題

高山家文書は平成八年（一九九六）七月、高山啓太郎氏（長野市高田川端）から当館へ寄贈された資料で、総数は三一件、八九点である。

高山家文書の特徴は各新聞社の号外にある。そのため、新聞資料と他の資料を分けて目録とした。新聞資料目録の（ ）は一面記事の見出しを表記した。

高山氏は昭和十一年（一九三六）から同一四年まで新聞配達を行うなか、こうした各紙の号外を収集した。号外は配布部数や配布方法など、一般紙と異なり保存されにくく、高山家の資料は貴重である。県内の図書館等でも号外の収集はされておらず、また新聞社が複数ある点も重要である。

これらの新聞資料は多く酸性紙が使われており、すでに劣化が著しいものもある。今後は保存の対策を講じる必要がある。

No.二三の信濃国善光寺略絵図は、松葉軒・長谷屋久左衛門版で、墨二色の一枚物の摺物である。同様の略絵図は多くの版元から出版されているが、これはその内の一枚である。

高山家文書目録（一九九六・A・三〇）

番号 年月日 表題（内容）

差出人・受取人

形態 数量

一一二	弘化二年	太平万代 大成武鑑 御役人衆卷之三		冊	一
一一一	（弘化二年）	太平万代 大成武鑑 御大名□□		冊	一
二一一	弘化三年春版	倭文庫积迎八相初編下卷	万亭應賀著 一陽齋豊国画	合冊	一
二一二	新春版（弘化三年）	倭文庫积迎八相四編上卷	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
二一三	弘化三年新刊	倭文庫积迎八相二編上卷	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
二一四	弘化三年新刊	倭文庫积迎八相三編下冊	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
二一五	弘化三年新刊	倭文庫积迎八相三編上冊	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
一三	昭和十三年一月	科学知識一八卷一号		冊	一
一四	昭和十五年八月	蘭領東印度南洋地方要図		鋪	一
一五	昭和十七年九月	簡明世界現勢図		鋪	一
一六	昭和十八年六月	同盟グラフ六		冊	一
一七	昭和十九年二月二十九日	受領書（金一五円）	長野連隊司令部→長野市青年団第七師団 第二分隊	状	一
一八	昭和十九年二月二十九日	領収書	長野地方海軍人事部→青年団第七支部第二 分団高山啓太郎	状	一
一九	昭和十九年三月	感謝状（献金につき）	海軍大臣島田繁太郎→青年団第七支部第二 分団代表高山啓太郎	状	一
二〇	昭和十九年七月二十五日	陸普第六一七二号九九式小銃及び短銃取扱法	福原俊夫	冊	一
二一		高野山絵図（仁徳寺版）		鋪	一
二二		武者の図		鋪	一
二三		信濃国善光寺略絵図	松葉軒升 長谷屋久左衛門	鋪	一
二四		衆議院議員姓名録		横半	一
二五		軍隊手帳		冊	一

二六 読売報道写真集

二七 通信紙（決六五部隊高山啓太郎）

二八 郵便往復はがき

二八 郵便はがき

二九 千人針（東部第五〇部隊高千穂隊 高山啓太郎）

三〇 止血棒（決六六五部隊佐藤隊） 高山啓太郎

（新聞）

番号 年月日 表 題（内容）

三 明治二九年一月一九日 中央新聞（五く八面）

四 明治三六年四月二九日 国民新聞（清国の海軍創設とラング氏の招聘）

五一 明治三七年一〇月一七日 萬朝報（陸軍の大勝利を祝す 日露陸軍の戦闘において）

五二 明治三七年一〇月二〇日 萬朝報（クロパトキとステッセル 戦争に現れる露人の気風）

五三 明治三七年一〇月二三日 萬朝報（政党の合同成るべきか）

五四 明治三七年一〇月二九日 萬朝報（戦争と青年〔中〕）

五五 明治三七年一〇月三一日 萬朝報（露は列国干渉を希望せざる乎）

七一 昭和二年七月一日 東京日日新聞号外（北支の形勢・遂に重大化 撤退協定を裏切り支那軍又も不法進撃）

六一 昭和二年八月一日 報知新聞号外（軍事大権を蔭に一任）

六二 昭和二年八月一日 報知新聞（五面・六面）

九一 昭和二年八月一日 名古屋新聞号外（平津戦線☆決死の写真行 天野本社特派員撮影陸軍省許可済）

六一 昭和二年八月五日 報知新聞号外（軍政部長苦衷を述べ 対日決戦苦難を訴ふ）

六四 昭和二年八月六日 報知新聞号外（全支の軍事を統一し 徹底抗日の氣勢拡大）

六五 昭和二年八月一〇日 報知新聞号外（上海に不祥事突発 保安隊の乱射浴び 無念・大山中尉惨死す）

六一 昭和二年八月二三日 報知新聞号外（皇軍厳然たり！ 残敵に備えて…）

八一 昭和二年八月二三日 読売新聞号外（上海開戦危機迫る）

六七 昭和二年八月二四日 報知新聞号外（我が軍艦遂に砲門を開く 上海にて）

冊 冊 冊 二 一 一 一 一 一 一

数量

- 七二 昭和二年八月四日 東京日日新聞号外(敵飛行隊上海を大爆撃)
- 六一八 昭和二年八月五日 報知新聞号外(我が空軍奮戦 敵飛行陣地爆撃 杭州及廣徳)
- 六一九 昭和二年八月七日 報知新聞号外(海軍機嘉興 虹橋空襲)
- 六一〇 昭和二年八月二日 報知新聞号外(更に両飛行場を空襲 笕飛行場)
- 六一一 昭和二年八月二三日 報知新聞号外(空の肉弾戦! 射つべき弾丸も盡き 敵陣目がけて体当り)
- 八二 昭和二年八月二三日 読売新聞号外(海軍機の猛威 壮絶! 空の肉弾戦 上海・南京・揚州・滁州にて)
- 七三 昭和二年八月二三日 東京日日新聞号外(上海戦局・愈々第二期戦へ)
- 一〇一 昭和二年八月二三日 東京朝日新聞号外(海軍機昨夜長翔して月面下に南京空襲)
- 六一二 昭和二年八月二四日 報知新聞号外(激戦相次ぐ上海)
- 七四 昭和二年八月二四日 東京日日新聞号外(我軍の上陸作戦進捗 上海、敵の全線大動揺)
- 六一三 昭和二年八月二五日 報知新聞号外(爆煙漲る上海戦線)
- 七五 昭和二年八月二六日 東京日日新聞号外(敵全軍を挙げて移動上海戦線)
- 六一四 昭和二年八月二七日 報知新聞号外(陸軍機も上海に出動す)
- 七六 昭和二年八月二七日 東京日日新聞号外(壮烈! 弾雨下の敵前上陸 廿三日上海にて)
- 六一五 昭和二年八月二九日 報知新聞号外(八達嶺突破従軍記)
- 七七 昭和二年八月二九日 東京日日新聞号外(壮烈無比南苑戦の華 部隊長の遺命体し)
- 六一六 昭和二年八月三〇日 報知新聞号外(のびるソ連の触手支那不可侵条約締結)
- 七八 昭和二年八月三〇日 東京日日新聞号外(重傷屈せず前進号令 壮烈! 倉永部隊長戦死す)
- 一〇二 昭和二年八月三〇日 東京朝日新聞号外(黒雲を衝き閃光交錯 揚子江下流方面で敵前上陸)
- 六一七 昭和二年九月一日 報知新聞号外(四飛行場爆滅 海軍機の支那大空襲)
- 八三 昭和二年九月一日 読売新聞号外(呉淞砲台陥落! 日章旗翻)
- 七九 昭和二年九月二九日 東京日日新聞正午版(敵の遺棄死骸だけで三千余 保定占領)
- 七一〇 昭和二年一〇月七日 東京日日新聞正午版(閘北の拠点・三義里確保)
- 七一 昭和二年一〇月一七日 東京日日新聞号外(騎兵斥候の敏捷 工兵隊の神技作業)
- 六一八 昭和二年一〇月二八日 報知新聞号外(閘北に揚げる凱歌の裡 偲ぶ陸戦隊苦闘の跡)
- 六一九 昭和二年十一月二日 報知新聞号外(上海市南翔 完全に占拠)

六―二〇	昭和二年一月一七日	報知新聞号外 (重慶へ突如遷都 軍事機関を除き諸機関奥地へ)	一
六―二一	昭和二年一月二〇日	報知新聞号外 (大本營設置 二十日陸海軍両省発表)	一
八―四	昭和二年五月一九日	読売新聞号外 (遂に徐州城落つ 城壁に日章旗揚る)	一
六―二二	昭和二年六月三日	報知新聞号外 (陸軍大臣更迭)	一
六―二三	昭和二年七月二日	報知新聞 (ソ連ゲ・ペ・ウ極東長官 リュシコフ大将亡命)	一
六―二四	昭和二年七月三日	報知新聞 (リュシコフ大将の手記公表)	一
六―二五	昭和二年七月七日	報知新聞 (けふぞ! 輝く聖戦一周年)	一
六―二六	昭和二年七月七日	報知新聞 (地図)	一
八―五	昭和二年七月二八日	読売新聞号外 (支那事変第二回論功行賞発表 輝く二千三百餘勇士)	一
七―一二	昭和二年二月一〇日	東京日日新聞号外 (皇軍海南島上陸)	二
一―二一	昭和二年五月二四日	信濃毎日新聞夕刊 (独伊親善同盟協定の内容)	二
一―二二	昭和二年五月三一日	信濃毎日新聞 (第三面・六面)	一
九―二	昭和二年九月三日	名古屋新聞号外 (対独戦線布告 イギリス起つ)	二
一―一一	昭和二年一月一三日	毎日新聞 (東京裁判 廿五被告に断罪下る)	一
一―一二	昭和二年一月一四日	毎日新聞 (吉田首相月末に解散を断行か)	一
一―一三	昭和二年二月二四日	毎日新聞 (七戦犯の絞首刑執行)	一
三―一	平成七年三月二二日	信濃毎日新聞夕刊 (オウム真理教強制捜査)	一